

金物鷲
3千点以上の金物で作られた三木金物のシンボル。重さ約1.5ト、両翼約5m、高さ約3m



昇龍
約3千点の越前打刃物で構成された巨大オブジェ。重さ約500kg、長さ3.6m、高さ1.8m

LOCAL JAPAN展(Resolution of LOCAL JAPAN展) ～地域が創る日本と地球のいのち輝く未来～

打刃物の奇跡が織り成す鋭刃の饗宴

▶日時 7月28日(月)～31日(木) 午前10時～午後8時
▶場所 EXPOメッセ「WASSE」南



▲ホームページ

関係者にインタビュー /

共同展示への思いを聞きました！

金物鷲と昇龍が生む熱き共創

金物鷲の展示は1952(昭和27)年に始まり、三木金物の象徴として長く受け継がれてきました。私自身、小学生のころに初めて見た金物鷲の迫力に衝撃を受けたことを今でも覚えています。三木工業協同組合青年部の委員長に就任してからは、仲間と心をつにし、良いものを生み出すという思いだけで組み上げてきました。今回は越前市との共同展示となり、それぞれの地域で生まれたシンボルが向き合うことで、どんな響き合いが生まれるのか非常に楽しみです。この共創を通じて、多くの人にその姿を見ていただくとともに、地域間の技術や情報の交流が深まればと思います。



三木工業協同組合
金物鷲保存部会
部会長 笹谷京作さん

次世代へ紡ぐ職人たちの結晶

1964(昭和39)年に初めて展示された「昇龍」は、もともと個々で動くことの多かった職人たちが、自らの仕事や技術をよりどころに力を合わせて作り上げた作品です。現代はAIなどの最先端技術が注目されていますが、だからこそ、対極にある手作業の魅力を間近で感じていただきたいです。一つ一つの道具やその集合体である2つのシンボルが向き合う姿を見て、「どうやって作ったんだろう」と素直な気づきを得ていただけたら嬉しいです。また、多くの子どもたちに「日本にはこんな技術があるんだ」と感じてもらえるきっかけになればと願っています。



越前打刃物産地協同組合連合会
理事長 増谷浩司さん



大阪・関西万博に金物鷲が登場
4月13日(日)に2025年日本国際博覧会(略称:大阪・関西万博)が開幕しました。世界中の人々が一緒に未来を描くこのイベントには、158の国と地域、7の国際機関が参加しており、それぞれが文化や価値観、技術を披露し、地球規模の課題を共有する大切な場となっています。
そんな大舞台に市では、7月28日(月)から31日(木)まで、三木金物のシンボルである「金物鷲」と福井県越前市の越前打刃物で組み立てた「昇龍」を共同展示し、世界から訪れる来場者に三木金物の魅力を発信し、古来から続く日本有数の刃物産地の技術に触れてもらうことで、日本の伝統工芸やものづくり技術について深く知ることができるようになります。
ここでは、「金物鷲」と「昇龍」の共同展示プロジェクト「打刃物の奇跡が織り成す鋭刃の饗宴」の概要や関係者の思いを紹介するとともに、その他にも、市における万博への出展予定についてお知らせします。

三木市が関係する万博出展予定

ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル2025

三木市は、書道パフォーマンスや地域資源を活用した製品・体験などで、市をPRします。

▶日時 5月26日(月)～30日(金)
▶場所 催事場「ギャラリーWEST」、
「ポップアップステージ西」



ひょうごフィールドパビリオン

閏(市) 縁結び課 地方創生係

地方創生SDGs フェス

三木市は、匂いをデジタル化する先端技術を活用して市の課題解決に取り組んでいる(株)香味醗酵と連携し、匂いに着目した没入体験を展開します。

▶日時 5月28日(木)～6月1日(日)
▶場所 EXPOメッセ「WASSE」



©さくまあきら ©Konami Digital Entertainment
*桃太郎電鉄®は持続可能な開発目標(地方創生SDGs)を支援しています



詳しくはこちら

大阪・関西万博の概要

▶期間 4月13日(日)～10月13日(月)
▶会場 大阪府大阪市此花区 夢洲

三木市が関係する出展は
大屋根リング外の西側に集中しています

マップの詳細は、大阪・関西万博の
ホームページで公開されています。



▲大阪・関西万博
ホームページ

